

飼養衛生管理基準の遵守状況のチェック表

(別紙2)

※記載方法：遵守している項目の にチェック印を付けること。
 該当しない項目には、「-」を付けること。

(家保記載欄)

鶏、あひる、うずら、きじ、だちよう、ほろほろ鳥及び七面鳥の場合

達成度
 (該当を○で囲む)

1. 家畜防疫に関する最新情報の把握等（発生予防やまん延防止に関する情報の入手等）		A・C
<input type="checkbox"/>	自らが飼養する家畜が感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延防止に関する情報を把握している。 (例) ・家畜保健衛生所からの情報を確認するとともに、指導を遵守している。 ・農林水産省の家畜防疫に関するホームページを閲覧している。 ・家畜衛生に関する講習会（研修会）に参加している。	A：チェックあり C：チェックなし
2. 衛生管理区域の設定		A・B・C
<input type="checkbox"/>	① 衛生管理区域を設定している。	A：チェックが2個 B：チェックが1個 C：チェックなし
<input type="checkbox"/>	② 衛生管理区域とそれ以外の区域との境界が分かるようにしている。	
3. 衛生管理区域への病原体の持込みの防止		A・B・C
<input type="checkbox"/>	① 門又は看板の設置等により、必要のない者を、衛生管理区域に立ち入らせないようにしている。	A：チェックが7～8個
<input type="checkbox"/>	② 衛生管理区域に出入りする車両の消毒をしている。	B：チェックが4～6個
<input type="checkbox"/>	③ 衛生管理区域及び家きん舎に出入りする者の手指の洗浄又は消毒及び靴の消毒をしている。	C：チェックが0～3個
<input type="checkbox"/>	④ 衛生管理区域専用の衣服及び靴並びに家きん舎ごとの靴を設置し、出入りする者に着用させている。	
<input type="checkbox"/>	⑤ 他の畜産施設に立ち入った者を、必要がある場合を除き、その日のうちに衛生管理区域に立ち入らせないようにしている（家畜防疫員、獣医師その他の畜産関係者を除く。）。	
<input type="checkbox"/>	⑥ 過去1週間以内に海外から入国し、又は帰国した者を、必要がある場合を除き、衛生管理区域に立ち入らせないようにしている。	
<input type="checkbox"/>	⑦ 他の畜産関係施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品であつて、飼養する家きんに直接接触するものを衛生管理区域に持ち込む場合には、洗浄又は消毒をしている。	
<input type="checkbox"/>	⑧ 過去2月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まないようにしている。やむを得ず持ち込む場合には、事前に洗浄、消毒等の措置を講じている。	
4. 野生動物等からの病原体の侵入防止		A・B・C
<input type="checkbox"/>	① 家きん舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講じている。	A：チェックが4～5個
<input type="checkbox"/>	② 野生動物の排せつ物が混入するおそれがある水を家きんに給与する場合には、消毒をしている。	B：チェックが2～3個
<input type="checkbox"/>	③ 野鳥等の野生動物の家きん舎への侵入を防止することができる防鳥ネット等の設置及び修繕をしている。	C：チェックが0～1個
<input type="checkbox"/>	④ 家きん舎の屋根又は壁面に破損がある場合には、破損箇所の修繕をしている。	
<input type="checkbox"/>	⑤ 家きんの死体を保管する場合には、保管場所への野生動物の侵入を防止するための措置を講じている。	
5. 衛生管理区域の衛生状態の確保		A・B・C
<input type="checkbox"/>	① 家きん舎及び器具の清掃又は消毒を定期的に行っている。	A：チェックが3個
<input type="checkbox"/>	② 家きん舎又はケージが空になった場合には、清掃及び消毒をしている。	B：チェックが2個

③	家きんの健康に悪影響を及ぼすような過密な状態で家畜を飼養していない。		C : チェックが0~1個
6. 家きんの健康観察と異状が確認された場合の対処			A・B・C
①	家きんに特定症状(※)を確認した場合には、直ちに家畜保健衛生所に通報することとしている。		A : チェックが7~8個
②	家きんに特定症状を確認した場合には、農場からの家きん及びその死体、畜産物並びに排せつ物を出荷し、又は移動させないこととしている。		B : チェックが4~6個
③	家きんに特定症状以外の異状を確認した場合には、直ちに獣医師の診療を受けることとしている。		C : チェックが0~3個
④	毎日、飼養する家きんの健康観察をしている。		
⑤	他の農場等から家きんを導入する場合には、導入元での疾病の発生状況や導入する家きんの健康状態の確認等をしている。		
⑥	他の農場から家きんを導入した場合には、当該家きんに異状がないことを確認するまでの間は、他の家畜と接触させないようにしている。		
⑦	家きんの出荷又は移動の直前に健康状態を確認している。		
⑧	家きんの死体又は排せつ物を移動する場合には、漏出を防止するための措置を講じている。		
7. 埋却等の準備			A・C
①	埋却地を確保している。		A : チェックが1~2個
②	焼却又は化製のための準備措置を講じている。		C : チェックなし
8. 感染ルート等の早期特定のための記録の作成及び保管			A・B・C
①	衛生管理区域に立ち入った者に関する記録を作成し、少なくとも1年間保存している。		A : チェックが3~4個
②	家きんの所有者及び従業員の海外への渡航に関する記録を作成し、少なくとも1年間保存している。		B : チェックが2個
③	家きんの導入、出荷又は移動に関する記録を作成し、少なくとも1年間保存している。		C : チェックが0~1個
④	家きんの異状に関する記録を作成し、少なくとも1年間保存している。		
9. 大規模所有者に関する追加措置(大規模所有者のみ記入)			A・B・C
①	農場ごとに、家畜保健衛生所と緊密に連携をとっている担当獣医師又は診療施設を定め、家きんの健康管理について定期的に指導を受けている。		A : チェックが2個 B : チェックが1個 C : チェックなし
②	従業員が家きんに特定症状を確認した場合に、大規模所有者の許可を得ずに直ちに家畜保健衛生所に通報することを規程したものを作成し、従業員に周知徹底している。		

※その他：飼養衛生管理基準の項目以外に行っている衛生管理の取組を記入。

※ 特定症状(対象とする家畜伝染病：高病原性鳥インフルエンザ又は低病原性鳥インフルエンザ)

①同一の家きん舎内において、一日の家きんの死亡率が対象期間(当日から遡って21日間)における平均の家きんの死亡率の二倍以上となること。ただし、家きんの飼養管理のための設備の故障、気温の急激な変化、火災、風水害その他の非常災害等高病原性鳥インフルエンザ以外の事情によるものであることが明らか場合は、この限りでない。

②家きんに対して動物用生物学的製剤を使用した場合において、当該家きんにA型インフルエンザウイルスの抗原又はA型インフルエンザウイルスに対する抗体が確認されること。